

6. 広報活動

2011年度は、6月のレーザー発振成功、3月の供用開始等の重要なイベントを受けて、多数の見学や取材に対応した。また、シンポジウムの開催や、パンフレットの製作等を通して、SACLAの広報・普及活動につとめた。

1. イベント

1-1 施設公開

2011年4月30日に第19回SPRING-8施設公開が開催され、SACLAは「想像以上に面白い！～X線自由電子レーザー施設～」と題し、実験研究棟の実験ホールを中心に、SACLAの施設と装置を展示やパネル、機材体験等で紹介した。施設公開全体は過去最多の4,497名の来場があり、うち3,486名がSACLAを見学し、SACLAへの関心の高さがうかがえた。

1-2 SACLA見学会

2011年8月8日には、SACLA建設関連企業、地元自治体関係者、メディア関係者を招いた「SACLA見学会」を開催した。5年間のプロジェクトが終了し、施設が完成、始動したことを報告し、感謝の意を表することが主たる目的であったが、312名（うちメディア関係者40名）という多数の参加があり、見学会の様子はTVや新聞、ウェブなどで広く取り上げられた。その結果、取材の申込みが増え、SACLAの知名度アップと理解促進に大きな効果があった。

参加者の内訳をみると、SACLA建設関連企業は実際に取引がある関西方面の企業や支社以外に関東方面の企業・本社、役員クラスの参加が多数あった。メディア関係者は、記者会加盟社（文部記者会、科学記者会、兵庫県政記者クラブ、神戸民間放送記者クラブ、大阪科学・大学記者クラブ、中播磨県民局管内記者名簿、西播磨県民局管内記者名簿）、過去にSACLA取材がある社・記者を中心に、関西だけでなく関東や北海道からの参加があった。

1-3 シンポジウム

X線自由電子レーザー施設と建設プロジェクトへの理解促進を目的とし、2010年度までは「XFELシンポジウム」と題したシンポジウムを計6回行ってきた。SACLAを広く紹介する場を設けるという意味で、2011年度もシンポジウム開催を継続することとしたが、SACLAの利用とその成果の紹介・理解促進へとテーマを移行し、タイトルも「SACLAシンポジウム」と改め、2011年12月3日に東京・丸の内MY PLAZAホールにて「第1回SACLAシン

ポジウム」を開催した。完成したSACLAの概要、SACLAが社会に与えるインパクトについてとともに、SACLAに寄せる期待などが語られた。参加者は関東方面からを中心に276名であったが、SACLA関連のシンポジウム・イベントにこれまで参加したことがない人、研究機関以外に所属する人の参加が目立った。

演題と講師は以下のとおりである。

「SACLA建設プロジェクトーレーザー性能高度化への挑戦は続くー」

理化学研究所 播磨研究所

放射光科学総合研究センター XFEL研究開発部門

田中 均 部門長

「SACLAが拓く科学と技術」

理化学研究所 播磨研究所 石川 哲也 所長

「SACLAへの期待」

評論家・ジャーナリスト 立花 隆 氏

1-4 供用開始記念式典

SACLA供用開始に先立ち、2月6日に、ホテル日航姫路にて「SACLA供用開始記念式典」を開催し、官庁、研究機関、関連企業、メディア等を中心に364名が参列した。理化学研究所野依良治理事長、高輝度光科学研究センター川上哲郎会長からの挨拶に始まり、来賓挨拶に加え、プロジェクト発足の契機も紹介したSACLA建設過程の説明、供用開始に向けた現状の説明、建設関連企業への感謝状贈呈等があった。

同日午前には、SACLA見学会を開催し、式典参加者を中心に268名の参加があった。

1-5 サイエンスアゴラ

一般向けの展示会やイベントにも積極的に参加し、SACLAの紹介に努めた。主なものとしては、11月19日、20日に東京・日本科学未来館で開催された「サイエンスアゴラ2011ー新たな科学のタネをまこう 震災からの再生をめざしてー」へのブース出展、講演会参加が挙げられる。

ブースは、「見えないものが見えてくる!? 夢の光“SACLA”」を理化学研究所として出展し、SACLAの装置をデフォルメした模型とパネルを中心に、アンジュレータ・加速管模型等を用いて、SACLAについての興味を高め、理解を深めることのできる工夫を凝らした展示を行った。ブースでは常時、研究者を含む理研職員が点在し、展

示や模型についての説明を行った。講演会は、「見えないものが見えてくる－次世代放射光施設SACLAについて－」と題して、放射光科学総合研究センターXFEL研究開発部門・北村英男 上級研究員が、聴講者による参加型の実験なども取り入れ、X線自由電子レーザーとは何か、SACLAはどういう施設か、幅広い年齢層の聴講者にわかりやすく紹介した。

イベント全体では、両日で5,300名を超える来場があり、SACLAのブースにも多くの人が立ち寄った。

2. 報道発表

2011年度の報道発表は、表1の5件である。XFEL初発振の報を含むSACLAの研究と利用に向けた進捗報告が3件、SCSS試験加速器を用いた研究成果が2件である。

取材は、直接来所の取材だけで30件を超える。

またメディア関係者向けの取材会を以下のとおり開催した。

2011年8月8日 SACLA見学会に際するメディア向け
レクチャー（22社参加）

2011年3月7日 SACLA供用開始 取材撮影・質疑応
答（4社参加）

見学会取材会は、関西拠点のメディアの参加が多かったが、全国ネットのテレビ局の参加もみられた。参加社のひとつであるTBSテレビの報道番組「NEWS23 X」で、立花隆氏がSACLAに対する大きな期待とともに取材・紹介する様子が放映され、大きな反響を呼んだ。その後の個別取材では、全国圏のメディアや、科学分野以外のメディアによる取材が増え、雑誌や新聞でSACLA特集が組まれる等、科学技術に興味関心が強い層以外への、SACLAの認

知度が高まったことは、2011年度に特筆すべき点である。

3. 刊行物

3-1 地元自治体広報誌

2009年1月から連載枠をいただいている、地元自治体である上郡町が発行する「広報かみごおり」には、2011年度も記事を掲載し、主に供用開始に向けたSACLAの進捗状況を紹介した。2011年7月号には連載が30回を数え、播磨研究所ウェブサイトにてこれまでの記事を掲載した。2012年3月号では供用開始記念特集が、連載枠を超えて、組まれた。

同じく地元自治体である佐用町が発行する「広報さよう」には隔月で連載枠をいただき、同じくSACLAに関する出来事や研究所の紹介を行った。

その他、「兵庫県民だより」での特集記事、姫路市産業振興課発行の広報誌「HOW to テクノ」での特集記事などに、記事を執筆した。

3-2 パンフレット

2011年7月に、「進化する日本の技術」という副題のSACLAのパンフレットを、理研・放射光科学総合研究センターより刊行した。このパンフレットは、SACLAの装置・施設に関わる技術に焦点をあてて、SACLAを紹介するというコンセプトのもとにつくられた。建設に関わった企業数百社の名前を記載する、建設過程を紹介する、といった斬新な内容と高いデザイン性が、内外で評価された。8月に第2版、12月に第3版を増刷した。

4. 見学対応

2011年度は、年度末の供用運転開始に向け、調整運転、初のX線レーザーの発振、利用装置課題の実施、と、実際

表1 2011年度の報道発表一覧

日 付	タイトル	発表機関
2011年 6月7日	「夢の光」をついに実現 －X線自由電子レーザー施設 SACLA（サクラ）がX線 レーザーの発振に成功－	理化学研究所、高輝度光科学研究センター の共同発表
2011年 10月5日	我が国初のX線自由電子レーザー施設SACLAで最初 の利用研究課題の募集開始	理化学研究所、高輝度光科学研究センター の共同発表
2011年 10月21日	極端紫外レーザーによる「超蛍光」を初めて観測 －X線領域での量子光学現象の応用に向けた第一歩－	理化学研究所、日本原子力研究開発機構、 自然科学研究機構分子科学研究所、高輝度 光科学研究センターの共同発表
2011年 12月5日	2つの電子が拓く極紫外域の新しい光吸収経路の解明 －SACLAなどの高強度な極短波長光源を用いた応用 研究への礎－	名古屋大学、新潟大学、電気通信大学、自 然科学研究機構分子科学研究所、理化学研 究所、高輝度光科学研究センター、科学技 術振興機構の共同発表
2012年 3月6日	X線自由電子レーザー施設SACLAが3月7日から供 用開始 －疾病の原因解明や新薬開発、優れた触媒などへ貢献－	理化学研究所、高輝度光科学研究センター の共同発表

SACLA初発振のプレスリリースについては、反響が大きく、ウェブを含め掲載記事は20件を超えた。

にSACLAの利用が始まった年であった。そのため、政府関係、産業界、海外研究機関等における要人、また学校教育の一環としての生徒・学生のみならず、幅広い層の見学希望があり、多くの見学者を受入れた。主な見学場所は、加速器棟玄関ホールからのクライストロンギャラリー見学、実験研究棟2階ギャラリーからの実験ホール見学となったが、模型や写真、動画等を使って、できるだけ施設を体感できるような対応に努めた。

研究推進部企画課